

⑦2道の駅国見 あつかしの郷

受賞機関 福島県 国見町

キーワード 交流人口の増、農の活性化支援、定住への支援

全建賞審査委員会の評価ポイント

定住人口の減少や原発事故による農産物の風評被害など、東日本大震災を契機として諸問題が顕在化する中、町内外の交流人口の増加により主産業である農業を育て定住を促すために複合型大型交流施設である「道の駅」を整備した事業。

町内外の様々なプレーヤーとの協同で、施設整備と平行して、「道の駅」における活動に係る準備を進め、多くの来場者で賑わう施設を実現している点が評価された。

1. はじめに

東日本大震災と原発事故からの復興は、新しいまちづくりが必要との考えから、再生のまちづくりを掲げ取り組んできた。平成25年に町内外からのプレーヤーからなる「活力あるまちづくり検討委員会」を立上げ、「1000年のまち。これから100年のまちづくり基本計画」を策定した。

この計画策定後「道の駅」整備に向けた準備と並行して、町内外のプレーヤーと協同で、売れる野菜の講習会、大学と連携した地産桃スイーツづくり、地域おこし協力隊による加工品づくり、伝統食と食文化を見直すため地域のお母さんと食の文化祭の開催、新生児に町産の積み木を贈るウッドスタート宣言の取組み、子育て世代を支援するママフェスの開催など、それらがまち歩きコンテンツとしてモニターツアーでも高い評価を受け、地域のお母さん、大学生、農家など様々なプレーヤーと一緒に「道の駅」の開業に向けて取り組んできた。

2. 事業の概要

○敷地面積：26,009.28㎡

○建築面積：2,726.28㎡ 鉄骨造（一部2階建て）

○駐車場：普通車138台 大型35台 特殊車両3台
身障者用4台 充電用1台

本施設は、国道4号を前面道路として立地しており、道路利用者への休憩場所の提供、地域情報や道路情報の提供を図るとともに、ママと子どもが一緒に遊べる「木育広場」や災害時には避難所として活用できる「宿泊機能」、「交流機能」を盛り込んだ研修室、さらに、国指定登録文化財「奥山家住宅」の意匠を活かしたカフェ、国見の野菜・お母さんの知恵を取り入れたレストラン、そして新鮮な農産物、県北圏域の加工品の「くにみ市場（直売所）」と、盛りだくさんの国見ものがたりを詰め込んだ道の駅となっている。



施設全景

3. 事業の成果

昨年5月にオープンし、13ヵ月余りで200万人が訪れた道の駅国見は、このような取組みが評価されたものと考えている。売上は8億円を超え、当初の事業計画以上となっており、施設全体が盛況を呈している。想定以上の来場者に沿線の飲食店や衣料品店、ガソリンスタンドも混雑するなど波及効果も表れている。

また、町内の観光資源の案内や説明を目的として活動している文化財ボランティアの利用者数が約2,500人（対前年比138%）と、道の駅を拠点とした町内の観光施設への周遊効果も表れており、交流人口の拡大により地域の活性化にもつながっている。



多くの来場者で賑わう「くにみ市場（直売所）」

4. おわりに

道の駅としての機能を十分に発揮し、多くの来場者で賑わいをみせている当施設は、道路利用者の休憩・いこいの場であるとともに、情報発信の拠点としてもその機能を十分に果たしている。今後さらに、農商工の連携による産業振興と交流人口の拡大に資するものであり、これからも町内外のプレーヤーと協同して、様々なコンテンツを提供していくこととしている。

賛助会員 (株)見建設